

第1回北海道地域学校協働活動推進協議会（道南会場）

【道南】平成30年7月11日（水）（函館市・渡島合同庁舎3階講堂）参加者：64名

1 説明「地域学校協働活動推進のポイントについて」

説明者 渡島教育局教育支援課社会教育指導班主査

風間直樹

地域学校協働活動推進のポイントとして、「コミュニティ・スクール制度の活用」「地域学校協働活動の事例」「放課後子ども総合プラン（連携型・一体型で取り組む放課後子供教室と放課後児童クラブの活動）の促進」について説明があり、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくりについて学びました。

参加者からは、「地域と学校との連携・協働の仕組みや大切さを理解できた」「コミュニティ・スクールや地域学校協働本部に対する国や道の動きなど、現状を知るよい機会になった」「前に参加した時に比べて、地域学校協働活動の状況が進展していることを実感できた。」などの感想が寄せられました。



2 講義・演習「障がいのある子どもや特別な支援を要する子どもへの対応について」

講師 渡島教育局教育支援課義務教育指導班指導主事

渡辺祐介

「視覚障がい」「聴覚障がい」「知的障がい」「肢体不自由」「病弱・身体虚弱」「言語障がい」「自閉症」「情緒障がい」「注意欠陥多動性障がい」「学習障がい」の9つの障がいについて、それぞれの状態等について説明がありました。その後、それらの障がいをもつ子どもへの対応の仕方として、「声かけ（叱り方、褒め方）の留意点」「教室環境の整備」「学用品等の工夫」をポイントに挙げ、具体的な支援方法について講義をとおして学びました。

また、VTRや教材を活用して、障がいをもつ子が置かれている教室環境を再現したり、障がいそのものを自ら体験したりする演習を行い、その感想を参加者同士で交流しました。

経験年数の少ない参加者からは、「今まで知らなかった障がい等を知ることができた」「障がいの体験を、子どもの理解に役立てたい」「学んだ叱り方やほめ方をすぐに実践したい」という声が寄せられました。また、経験豊富な参加者からは、「障がいのある子どもについての講義は何度聞いても役に立つので、今後も研鑽に努めたい」「障がいのある子どもへの支援方法は、障がいの有無に関わらず、すべての子に通じるので、本日の講義を応用して日々の実践に生かしたい」との声が寄せられました。



3 演習「パラリンピック・スポーツの体験」

講師 函館ポッチャ協会

下 重 建 治 氏、近 藤 良 一 氏

はじめに、ポッチャ競技について説明があり、2016（平成 28）年のリオデジャネイロパラリンピックで日本チームが銀メダルを獲得し、それを契機に競技の普及が進んでいることが紹介されました。また、障がいの程度に合わせてクラス分けをし、競技を実施していること、男女の区別がないこと、個人戦の他にも団体戦（ペア戦、チーム戦）があることなど、柔軟にルールを設定することができ、みんなで楽しめるゲームにできることなどについて説明があり、参加者は、ポッチャ競技の特色について学びました。

その後、参加者は実際に団体戦を体験し、ルールを学びながら、ゲームを楽しみました。ボールを狙いどおりに投げようとする緊張感、ボールを寄せたり、弾いたりする楽しみを味わいながら、次第にゲームの魅力に引き込まれていきました。

また、審判・副審や記録係も体験し、ゲームの進行役にも挑戦しました。

参加者からは、「初めて知ったスポーツでした。とても楽しく体験できました」との声が多く寄せられました。また、「ルールの理解に努めて、ぜひ子ども達と楽しみたい」「障がいの有無に関わらず、いろいろな年代（高齢者、子どもなど）で一緒に楽しめるスポーツだと感じた」「色々なパラリンピック・スポーツを体験し、その楽しさを学び、子ども達に紹介したい」という声も寄せられました。

最後に、下重氏より「ポッチャは、障がいのある人もない人も、老若男女もみんなが一緒に楽しくプレーできるスポーツです。ぜひ、ポッチャの魅力地域学校協働活動で活用してほしい。」との言葉がありました。



4 演習「情報交流：子どもたちの学びと育ちを分かち合う地域学校協働活動」

進行 渡島教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事

佐々木 智 史

様々な所属団体に構成した4つのグループに分かれ、「地域学校協働活動の実際」と「地域学校協働活動の課題」について意見交換をしました。

参加者からは、「各市町、各団体の考え方を聞くことができた貴重な機会でした」「児童の実態や実際の取組を知ることができて有意義でした」「他の市町の実践を参考にして、児童と町民が交流できる機会をもっと増やしていきたい」などの感想が寄せられました。

